

<目標分野>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- ・国内外からの観光客や観戦者を対象にスポーツと観光を融合したスポーツツーリズムを推進する。目標値:コンテンツ数 (15)
- ・海外からのスポーツキャンプ・合宿の受入体制を構築し、充実化を図る。目標値:海外スポーツ団体の受入数 (4団体)
- ・スポーツと地域資源を掛け合わせた商品開発やサービス開発を行う事業者を支援する。目標値:新たにスポーツ関連ビジネスに取り組む事業者数 (15事業者)

<PRポイント>

- ①【スポーツコミッションの多角化戦略】…デジタル(DX)化による施設予約の効率化を図り、スポーツ交流及び体験等のイベント開催への利便性を向上させ、スポーツツーリズムによる交流人口の増加を図る
- ②【東京2020オリパラのレガシーを継承した海外合宿受入】…事前合宿を受け入れたノウハウを市内の事業者やスポーツ団体等へレガシーとして共有し、海外のスポーツチームを受け入れる体制の基盤を強化する
- ③【スポーツ関連ビジネスの発掘・育成】…地域の金融機関や各支援機関と連携し、スポーツに関連する商品開発やサービス提供を行う事業者や起業家を支援する

<概要> 計画期間：～令和5年3月31日

<現状・課題>

- ①スポーツ施設利用者及びスポーツファンに対し、中心市街地の事業者への誘客の取り組みが弱い
- ②海外の代表チームの事前合宿受け入れ等の経験をいかにして継承していくか。(受入ノウハウ、海外チームの要望に沿った環境整備、その他有形無形を問わず事業実績のレガシー化を図ることが課題)

<総合的な取組内容>

☆スポーツコンベンションシティ2.0
(成長期: 2012年～2020年)
ホームタウン支援、オリパラホストタウン・事前合宿受入、スポーツツーリズム等

☆スポーツコンベンションシティ1.0
(創成期: 1996年～2011年)
スポーツ環境整備、プロ野球キャンプ受入等

スポーツコンベンションシティ3.0 (発展期:2021年～)

- ①スポーツコミッションの多角化戦略 (デジタル化推進含む)
- ②東京2020レガシーを継承した海外合宿受入
- ③スポーツ関連ビジネスの発掘・育成等



デジタル(DX)化による施設予約の効率化等※1



沖縄アリーナ供用開始 (合宿受入開始)

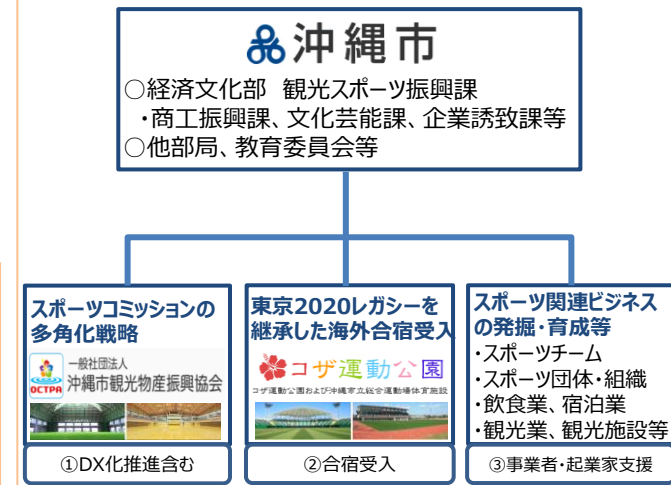


コラボレーションによる新商品開発等※2

- ①スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業 (スポーツ庁) ※1
- ②地方創生応援税制 (企業版ふるさと納税) (内閣官房) ※2



<継続的な取組を確保できる体制 (図) >



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：経済文化部観光スポーツ振興課 (首長部局内)
- 地方スポーツ推進計画：スポーツコンベンションシティ宣言 (平成8年9月24日)、沖縄市スポーツ推進計画 (平成26年3月)
- 地方版総合戦略：第5次沖縄市総合計画前期基本計画・第2期沖縄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (令和3年4月1日)
- 地域スポーツコミッション：一般社団法人沖縄市観光物産振興協会 (平成26年4月1日)
- ホストタウンの相手先：ニュージーランド (空手競技)
- 東京2020オリンピック事前キャンプ協定締結による相手先：フランス (男子バレーボール競技)